

地 域 経 済 動 向

平成 16 年 2 月 27 日

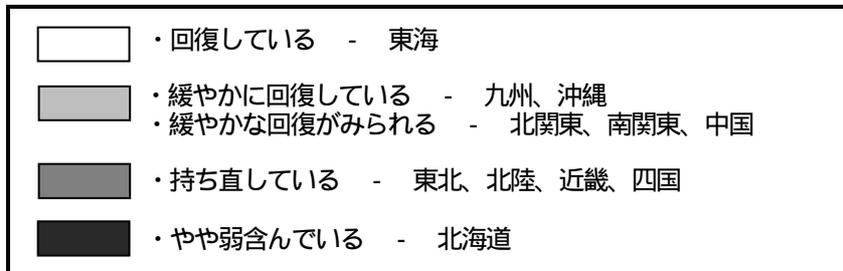
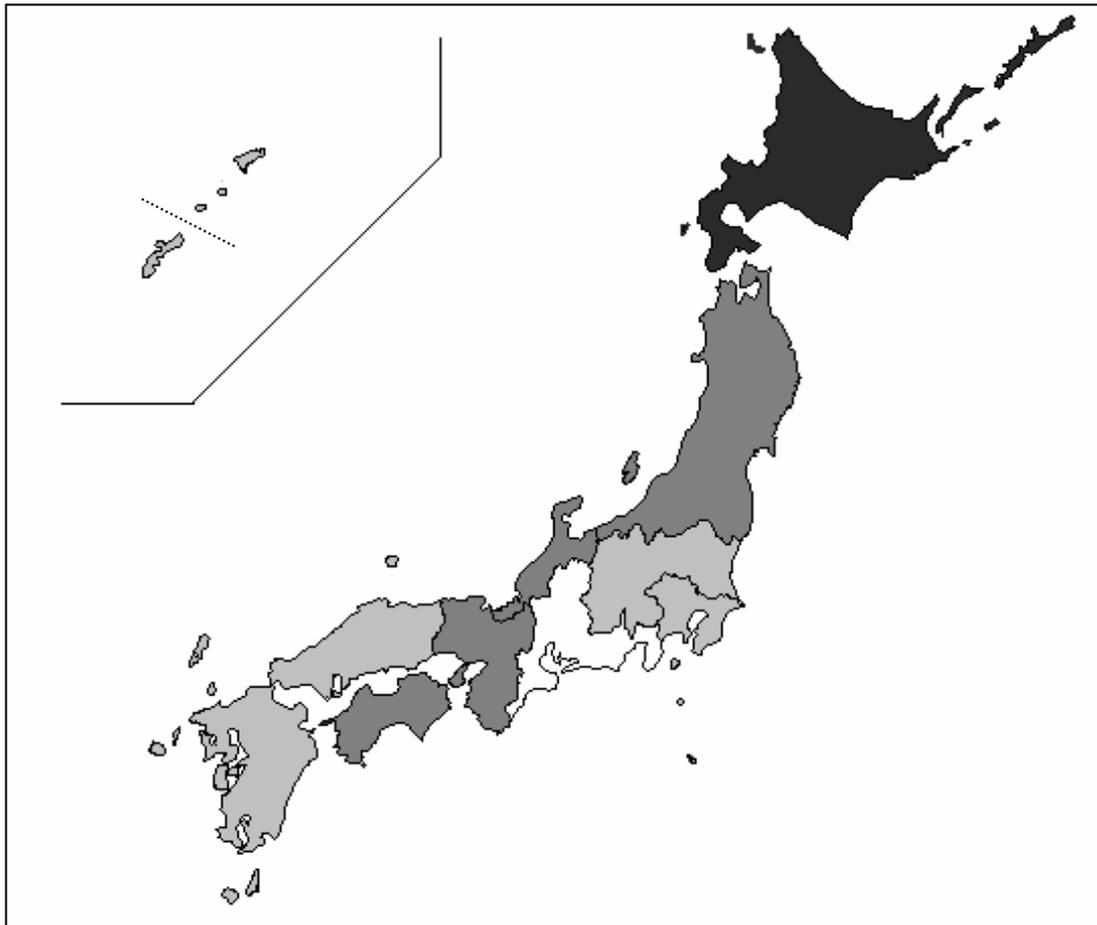
内閣府政策統括官
(経済財政分析担当)

目 次

- 1 地域経済の概況
- 2 地域経済トピックス
- 3 地域経済の動向
 - (1) 北海道
 - (2) 東北
 - (3) 北関東
 - (4) 南関東
 - (5) 東海
 - (6) 北陸
 - (7) 近畿
 - (8) 中国
 - (9) 四国
 - (10) 九州
 - (11) 沖縄
- 4 地域景況インデックス
- 5 地域経済関連主要指標
- 6 参考資料

1 地域経済の概況

(1) 各地域の景況判断



各地域の景況判断	北海道	東北	北関東	南関東	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
回復している											
緩やかに回復している/ 緩やかな改善が続いている/ 緩やかな回復がみられる/ 緩やかな改善がみられる											
持ち直している/ 持ち直しの動きが続いている/ 持ち直しの動きがみられる											
やや弱含んでいる											

(備考) は、今回調査の判断。 は、前回調査の判断。

今回調査（平成16年2月）の前回調査（平成15年11月）との比較

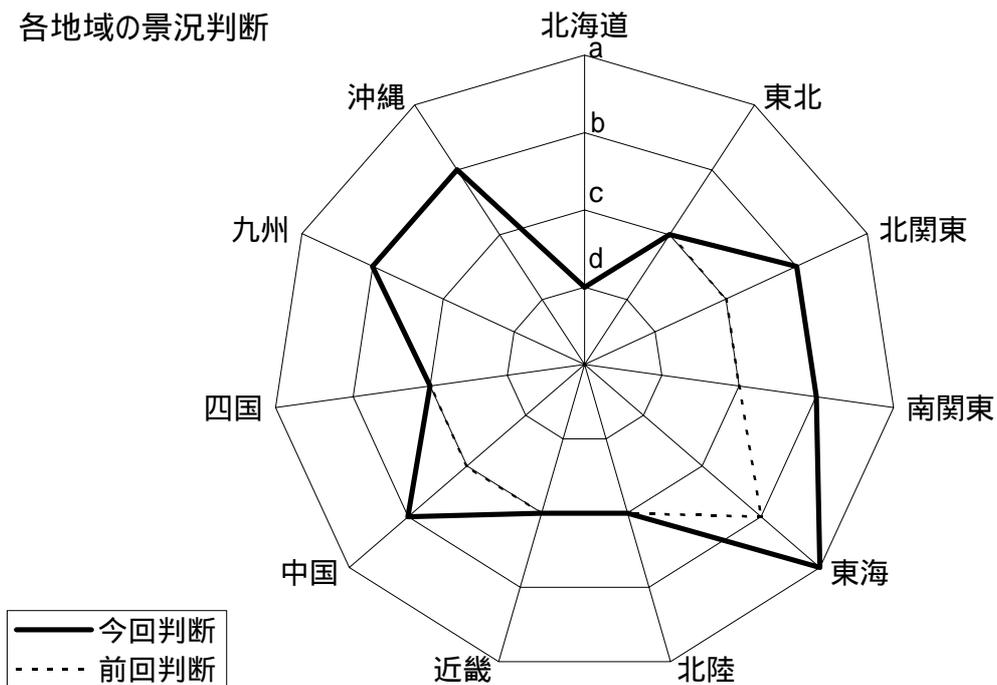
上方修正・・・4地域（北関東、南関東、東海、中国）

下方修正・・・なし

各地域の景況判断は、北関東、東海、中国では鉱工業生産、雇用情勢などを理由として、南関東では鉱工業生産、個人消費、雇用情勢などを理由として、それぞれ上方修正となった。

その他の7地域（北海道、東北、北陸、近畿、四国、九州、沖縄）については前回調査と同じである。

各地域の景況判断



- a: 回復している
- b: 緩やかに回復している / 緩やかな改善が続いている / 緩やかな回復がみられる / 緩やかな改善がみられる
- c: 持ち直している / 持ち直しの動きが続いている / 持ち直しの動きがみられる
- d: やや弱含んでいる

(2) 各地域の景況判断と主要変更点

東海では、景気は回復している。

	前回(平成15年11月)	今回(平成16年2月)
東海	緩やかな改善がみられる	回復している
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加
個人消費	緩やかな持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている	改善

九州、沖縄では、景気は緩やかに回復している。

	前回	今回
九州	緩やかな改善がみられる	緩やかに回復している
鉱工業生産	増加	緩やかに増加
個人消費	やや弱含み	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている

	前回	今回
沖縄	緩やかな改善が続いている	緩やかに回復している
観光	引き続き増加	
個人消費	緩やかな持ち直しの動きが続いている	緩やかに持ち直している
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている	依然として厳しい状況の中、改善の動きに足踏みがみられる

北関東、南関東、中国では、景気は緩やかな回復がみられる。

	前回	今回
北関東	持ち直しの動きが続いている	緩やかな回復がみられる
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加
個人消費	おおむね横ばい	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	依然として厳しい状況だが、改善の動きがみられる

	前回	今回
南関東	持ち直しの動きが続いている	緩やかな回復がみられる
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加
個人消費	おおむね横ばい	おおむね横ばいとなっているが、持ち直しの動きもみられる
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている	依然として厳しい状況だが、改善が続いている

	前回（平成 15 年 11 月）	今回（平成 16 年 2 月）
中国	持ち直しの動きが続いている	緩やかな回復がみられる
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加
個人消費	やや弱含み	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている

東北、北陸、近畿、四国では、景気は持ち直している。

	前回	今回
東北	持ち直しの動きがみられる	持ち直している
鉱工業生産	増加	
個人消費	弱含み	やや弱含み
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている

	前回	今回
北陸	持ち直しの動きが続いている	持ち直している
鉱工業生産	緩やかに増加	
個人消費	やや弱含み	おおむね横ばい
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている

	前回	今回
近畿	持ち直しの動きが続いている	持ち直している
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加
個人消費	おおむね横ばい	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている

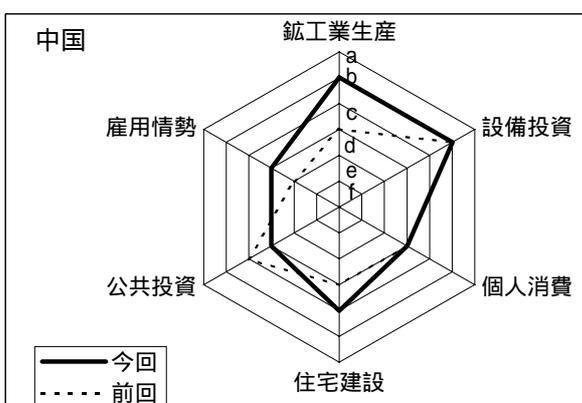
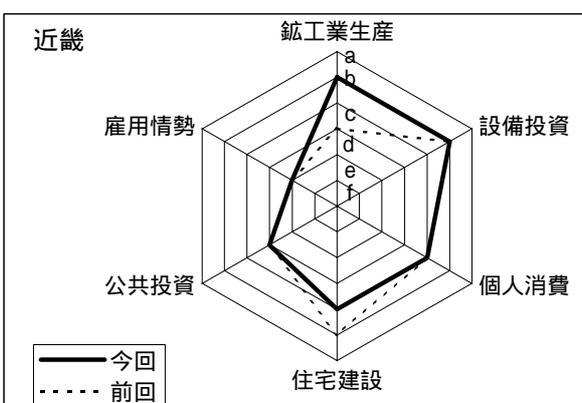
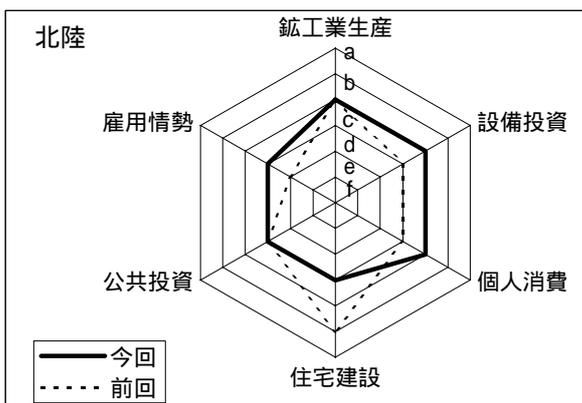
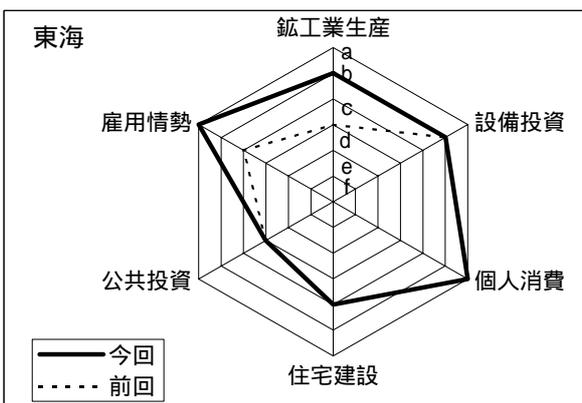
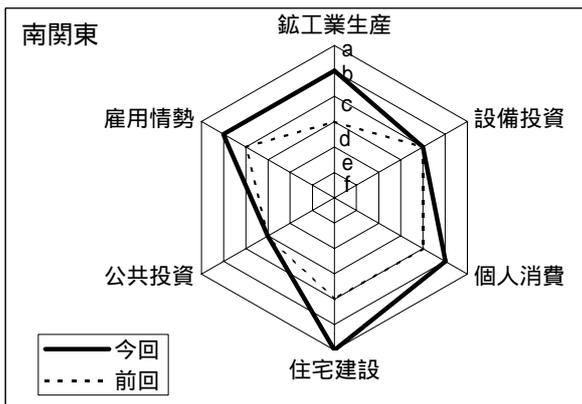
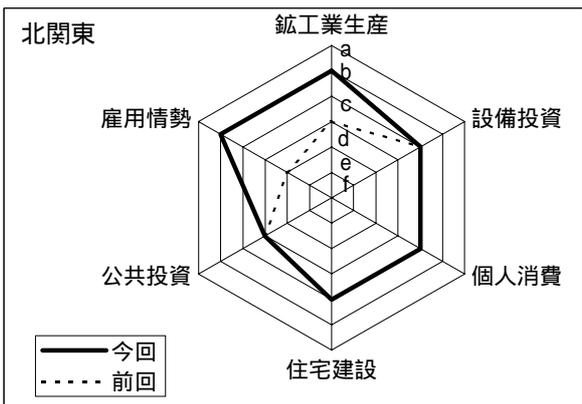
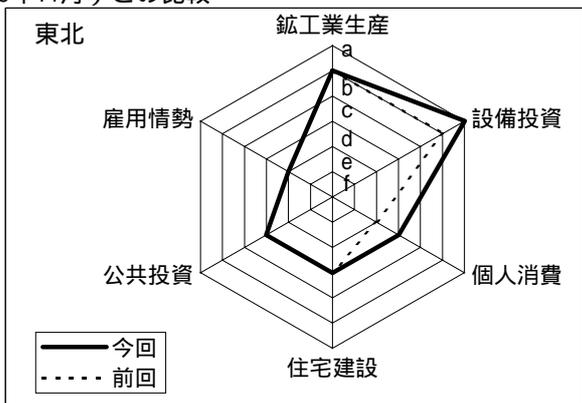
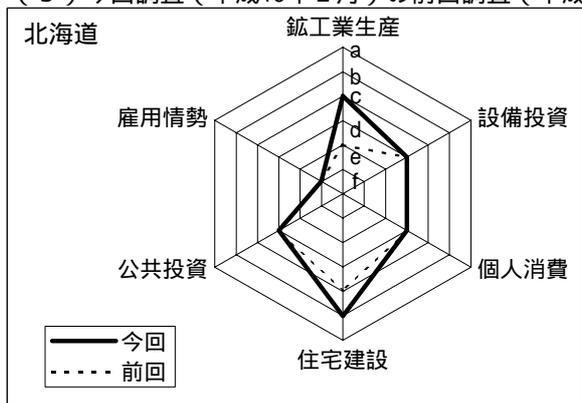
	前回	今回
四国	持ち直しの動きがみられる	持ち直している
鉱工業生産	このところ増加	増加
個人消費	おおむね横ばい	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている

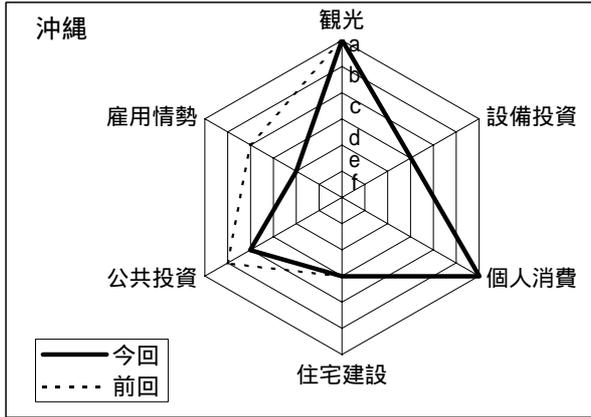
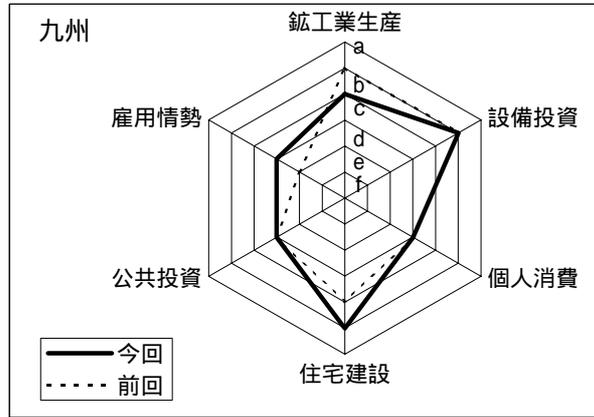
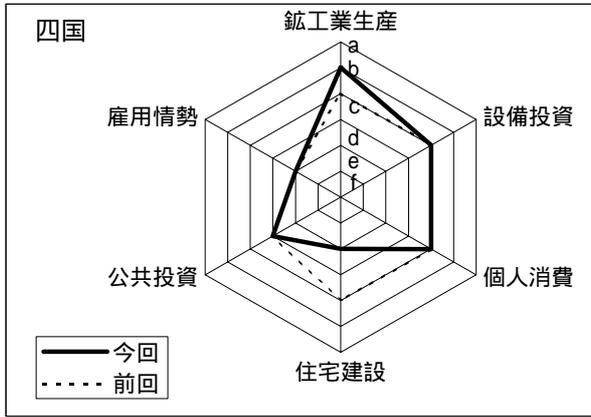
北海道では、景気はやや弱含んでいる。

	前回	今回
北海道	やや弱含んでいる	やや弱含んでいる
鉱工業生産	緩やかに減少	緩やかに増加
個人消費	やや弱含み	
雇用情勢	依然として厳しい	

（注）今回調査欄の空欄は変更がなかったことを示す。
は上方修正、 は変更なし、 は下方修正を表す。

(3) 今回調査(平成16年2月)の前回調査(平成15年11月)との比較





(凡例) 鉱工業生産 (注) 沖縄は観光

- a: 引き続き増加
- b: 増加
- c: 緩やかに増加 / このところ増加
- d: おおむね横ばい
- e: 緩やかに減少

設備投資

- a: 15年度は前年度を大幅に上回る計画となっている
- b: 15年度は前年度を上回る計画となっている
- c: 15年度は前年度とほぼ同水準の計画となっている
- d: 15年度は前年度を下回る計画となっている

個人消費

- a: 緩やかに持ち直している / 緩やかな持ち直しの動きが続いている / 緩やかな持ち直しの動きがみられる
- b: おおむね横ばいとなっているが、持ち直しの動きもみられる
- c: おおむね横ばい
- d: やや弱含み
- e: 弱含み

住宅建設

- a: 大幅に増加
- b: 増加
- c: おおむね横ばい
- d: 減少
- e: 大幅に減少

公共投資

- b: 前年を上回っている
- c: 前年とほぼ同水準になっている
- d: 前年を下回っている

雇用情勢

- a: 改善している
- b: 依然として厳しい状況だが、改善が続いている / 依然として厳しい状況だが、改善の動きがみられる
- c: 依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている
- d: 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている
- e: 依然として厳しい状況の中、改善の動きに足踏みがみられる / 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている / 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる
- f: 依然として厳しい

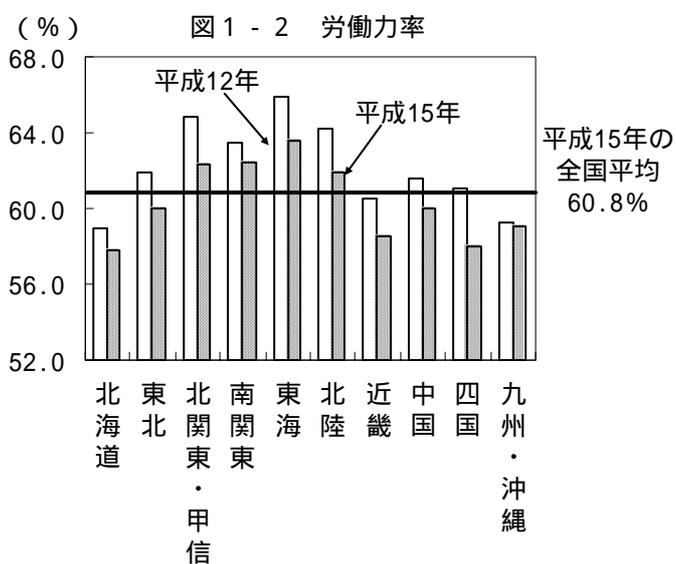
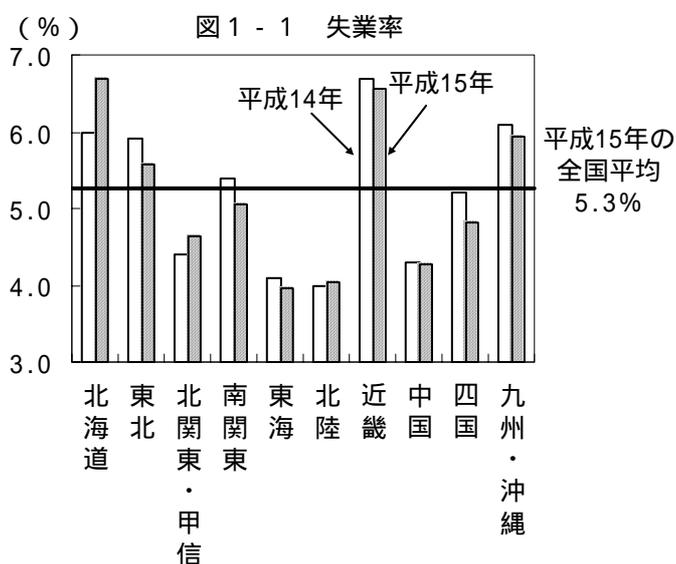
2 地域経済トピックス

<トピック1> 多くの地域で改善した失業率と動向に注意が必要な労働力率¹

平成15年の完全失業率を前年と比較すると、6地域で改善し、2地域で横ばい、2地域で悪化した（図1-1）。

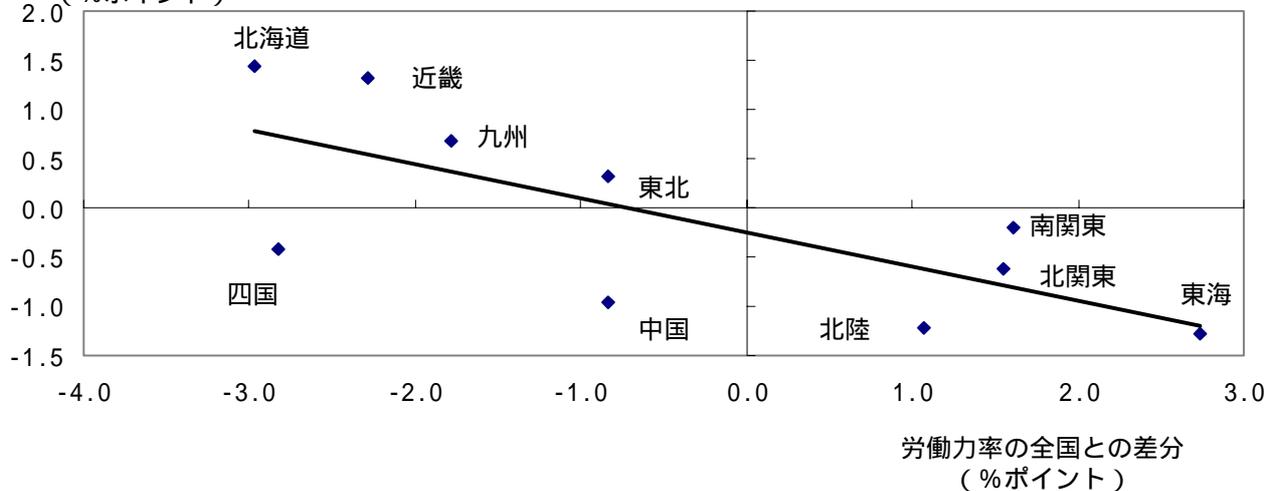
完全失業率の水準、あるいはその変化は地域差があるが、労働力率についても地域差がうかがえる。平成15年についてみれば、関東から中部にかけての地域が高い一方で、北日本、西日本は低い傾向にある（図1-2）。

また、完全失業率と労働力率の関係をみると、労働力率の高い地域で、失業率が低くなっていることがわかる。今後も失業率の改善が続くかに関しては、求人・求職の状況に加えて、労働力率も注視していく必要がある（図1-3）。



失業率の全国との差分
(%ポイント)

図1-3 失業率と労働力率



¹ (備考) 総務省「労働力調査」により作成。図1-3は、平成15暦年データにより作成。

<トピック2> 電子部品・デバイス工業のウェイトが高い地域ほど増加した
 鉱工業生産¹

平成15年12月の全国の鉱工業生産指数は、4か月ぶりの減少で97.9となったが、水準としては、約2年半前の水準となっている（図2-1）。その要因としては、平成14年4月以降、前年を上回って増加している電子部品・デバイス工業の寄与が大きい（図2-2）。

近年では最も水準の低かった平成13年10-12月期から、直近の平成15年10-12月期にかけての地域別鉱工業生産の増加率を比較してみると、東北、九州など鉱工業生産に占める電子部品・デバイス工業のウェイトが高い地域ほど、鉱工業生産が増加していることが分かる（図2-3）。（なお、東海では、電子部品・デバイス工業が大幅に増加するとともに、輸送機械工業の好調もあって、高い伸びとなっている²。）

これは、最近のデジタル家電需要の好調（図2-4）等を反映して、電子部品・デバイス工業を中心に生産が増加していることを示しているものと考えられる。

図2-1 約2年半ぶりの水準となっている鉱工業生産指数

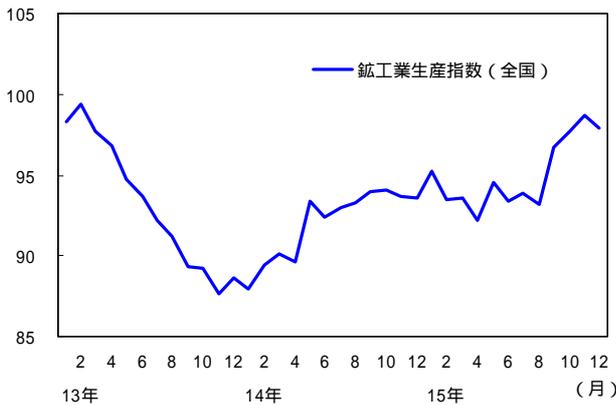


図2-2 鉱工業生産指数（全国）の前年同月比増減率に対する寄与度の推移

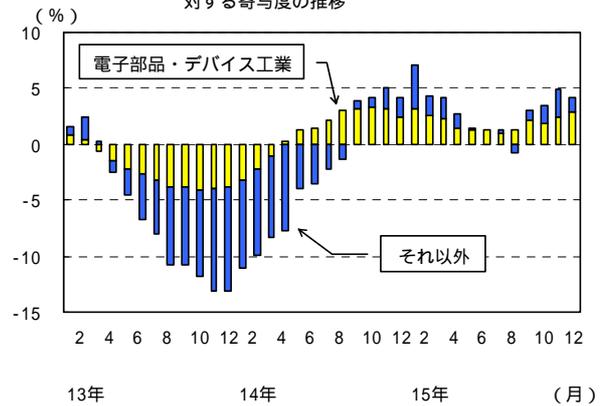


図2-3 電子部品・デバイス工業のウェイトが高い地域ほど鉱工業生産が増加

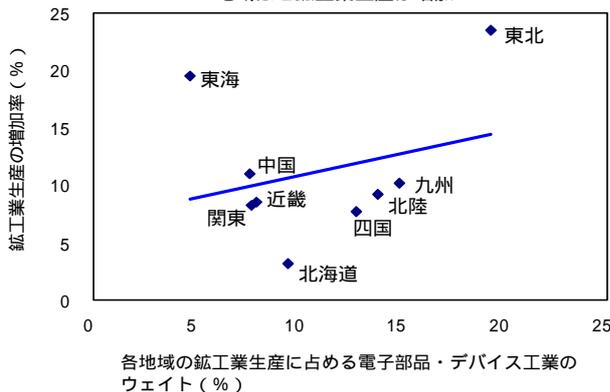
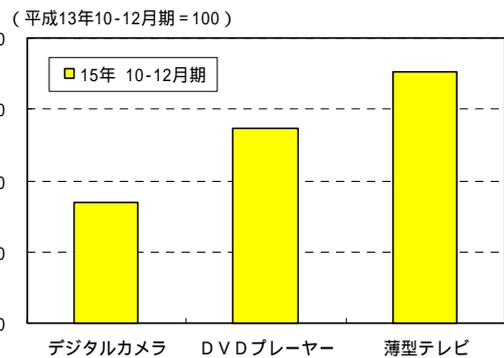


図2-4 好調なデジタル家電販売



¹ (備考) 図2-1及び図2-2は、経済産業省「鉱工業生産動向」により作成。平成12年=100、季節調整値。図2-3は、経済産業省、各経済産業局、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局「鉱工業生産動向」により作成。平成12年=100、季節調整値。各地域の鉱工業生産に占める電子部品・デバイス工業のウェイトについては、「6 参考資料(3)」参照。ただし、北海道及び四国については、平成12年基準改定の際に旧「電気機械工業」から「電子部品・デバイス工業」が分割されていないため、電気機械工業のウェイト。鉱工業生産の増加率は、平成13年10-12月期と平成15年10-12月期の比較。平成15年10-12月期は速報値。地域区分は「6 参考資料(2)」のB。ただし、東海が岐阜、愛知、三重の3県、北陸が富山、石川、福井の3県。図2-4は、カメラ映像機器工業会及び電子情報技術産業協会の統計資料により作成。国内出荷台数の原数値。薄型テレビは、2001年までは液晶テレビ、2002年以降は液晶テレビとPDPの合計。

² 東海の鉱工業生産に占める輸送機械工業のウェイトについては、「6 参考資料(3)」参照。